秋田魁新報　2023年08月26日付　秋田市

高校生ものづくりコンテスト

秋工生２人、東北制す

木材加工　電気工事

佐々木さん、原田さん全国へ

7、8月にかけて開かれた「高校生ものづくりコンテスト」東北大会で、木材加工部門を秋田工業高校建築科3年の佐々木愛さんが、電気工事部門を同校電気エネルギー科3年の原田さゆりさんが、それぞれ制した。2人は11月に九州で行われる全国大会に向け意欲を高めている。

＊　＊

木材加工部門は8月8、9の両日、秋田市の秋田工業高校で開催した。柱を組み合わせたり、木材同士を斜めにつなぎ合わせたりなど、建築に必要なさまざまな技術が求められる制作課題が出され、県内外の7人が出場。正確に図面を書く能力や、加工の精度、作業の効率性など幅広い観点で審査された。

佐々木さんは放課後に練習を重ね、「限られた時間の中で、できないことを毎日一つずつなくしてきた」という。「これまでの集大成を見せたいと思っていたので、素直にうれしい。改善点を修正して全国でも上位を目指す」と語る。

同じ部門には後輩の武石梁さんが唯一の2年生として出場。入賞は逃したが、「まだまだ向上できることがある。佐々木先輩の背中を追って頑張りたい」。2人を指導した実習助手の能登信治さん(39)は「少し緊張していたようだが、普段の力を発揮していた。2人ともまだまだうまくなれる。これからも頑張ってほしい」と期待した。

7月15、16の両日に岩手県北上市の黒沢尻工業高校で行われた電気工事部門には、東北各県の7人が出場した。約2㍍四方の板に、スイッチや電球を取り付けて電気回路を組み立て、間違いのない配線や、電線を収める管の正確な加工、配置などを競った。

原田さんは、工程を50近くに細分化して紙に書き出し、それを基に一つ一つの作業を体にたたき込んだ。「周りを見て慌てないように、自分だけの分単位のスケジュールを作った。念願の優勝でうれしい」と話した。

指導に当たった実習助手の佐藤一志さん(50)は「普段の生活態度まで気を使いコンテストに注力していた。膨大な情報量を取り込んで、本番で力を出し切れたのはすごい」と評価した。

全国大会に向け、原田さんは「謙虚に練習を重ね、しっかりとした作品を完成させて優勝したい」と意気込む。「将来は電気で人の役に立てる仕事に就きたい」と話す。

大会は東北地区工業高等学校長会の主催。7、8月に木材加工や電気工事を含む計7部門が行われた。ものづくりへの関心を高め、技術向上と交流を目的に開かれている。

（小山田章士）

木材加工部門を制した佐々木さん

電気工事部門で優勝した原田さん

©秋田魁新報社